

令和5年松本市議会6月定例会  
市長閉会あいさつ

[5.6.29(木) 13:30]

発言の機会をいただきましたので、閉会に当たり、ごあいさつを申し上げます。

議員の皆様には、18日間に及ぶ会期中、熱心にご審議を賜り、それぞれの議案を原案どおり決定していただいたことに対しまして厚く御礼を申し上げます。

市議会議員選挙後、初めてとなりました6月定例会では、24人の皆様が一般質問に立たれ、市政各般に関して多角的な視点からご意見ご提案をいただきました。「三ガク都のシンカ」につながる、良い提案は即実行する、という観点から、十分に精査・検討して取り組んでまいります。

この定例会では、松本市の事業を民間企業に発注・委託する契約を適正に履行し、労働者の権利を守る「松本市公契約条例」が、全ての議員の皆様の賛成を得て成立いたしました。条例の制定により、事業者と松本市の責務が明確に定められました。事業者には、法令遵守の意識を高め、労働条件の改善に取り組むことをお願いするとともに、松本市としては、労働環境報告書の提出などを通じて、質の高い公共サービスを提供し、豊かで安心して暮らせる地域社会の実現につなげてまいります。

市立病院を移転建設するための基本設計の再開が、昨日開催された特別委員会で、全会一致で了承されました。これを受けて、産科診療の見直し検討に伴って休止していた建設プロセスを速やかに再開いたします。今後は、市民が求める持続可能な公立病院の実現に向けて、「経営強化プラン」の策定などを着実に進め、令和9年度中の開院を目指して取り組んでまいります。

松本市で5か所目の「こどもプラザ」となる、多世代交流型子育て支援施設「あんさんぶる」が、来月12日にイオンタウン松本村井にオープンいたします。必要な条例改正をお認めいただき、御礼を申し上げます。

南部地域は、子どもや現役世代の人口に対して子育て施設が少なく、屋内で子どもが思い切り遊べる施設を要望する声が数多く寄せられていました。従来のこどもプラザのおよそ2倍の広さを有する「あんさんぶる」は、大型商業施設の中に設置するため、土曜、日曜、祝日の開館と広い駐車場の利用が可能となります。「子どもが主人公」のまちづくりを進める一環として、大勢の皆様にご利用していただきたいと思っております。

まつもと市民芸術館の新たな「芸術監督団」体制について申し上げます。

昨日、共同記者会見で発表させていただいたとおり、芸術監督団の団長兼演劇部門の芸術監督には、歌舞伎の古典演目を現代劇として上演する、「木ノ下歌舞伎」主宰の木ノ下裕一氏、舞踊部門の芸術監督には、京都を拠点に前衛的な芸術作品を生み出している、演出家・振付師・ダンサーの倉田翠氏、芸術館の作品のみならず松本の文化・芸術の魅力を発信するゼネラルアートアドバイザーには、舞台や映像で幅広く活躍する俳優で歌手の石丸幹二氏に、それぞれ就任していただくことが決まりました。

おとし3月末に串田和美総監督の令和4年度限りの退任を発表した後、専門家会議の提言、市民を交えた検討委員会の議論・答申を受けて、複数のジャンルから次の世代に発信できる優れた人材を起用することが望ましいとして、3人の方々と調整を進めてまいりました。今年度は「参与」として芸術館活動への理解と助言をいただき、来年4月から「芸術監督団」として正式に就任いただく予定です。

まつもと市民芸術館は、来年開館20年の大きな節目を迎えます。

伝統と革新が共存する都市の象徴として、ジャンルの異なる才能豊かな3人の皆さんには串田和美さんの功績を継承しながら、市民の皆さんとともに「ひらいていく」、新時代の劇場を作り出していきたいと思えます。

その市民芸術館も会場となるセイジ・オザワ・松本フェスティバルは、この夏、次の30年に向けて新たなスタートを切ります。小澤征爾総監督のボストン時代からの友人である、映画音楽の世界的巨匠、ジョン・ウィリアムズ氏の来日公演が実現し、国内外から大きな注目を集めています。

一方、美術館では、松本市出身の映画監督「山崎貴の世界」特別展が、来月から3か月あまりにわたって開催されます。期間中は、監督自身が描き下ろした大型キャラクターが市内を巡回し、日本のVFX・ビジュアルエフェクトの第一人者である山崎監督の世界を、美術館と街中の双方で堪能していただけます。

コロナから自由になって迎えるこの夏は、芸術の「楽都・松本」を、市内外の大勢の皆さんに楽しんでいただくことを期待しています。

およそ8か月にわたり、アルプス公園の旧まきば山荘跡地の未整備地を中心とする南側開園部の活用方針を議論してきた、「松本市アルプス公園魅力向上検討会議」から、一昨日、提言書を受け取りました。

提言書では、アルプス公園に求められる役割として、子どもを中心とした遊び・体験・交流の場、豊かな生活を支える場、生物多様性が保全された体験・学びの場という、3つの方向性が示されました。

その上で、未整備地と展望広場について、全体を1つのエントランスエリアと捉え、「景観を最大限に活かした回遊・交流・憩いの空間」として、飲食スペースや総合案内などの機能を備えた展望施設と多様な主体が様々な用途に活用できる芝生が敷かれた多目的スペースを整備することが提言されています。

今後は、市議会に対して提言内容を詳しく報告し、協議を進めた上で、来年開園50年を迎えるアルプス公園が、市民にとって更に居心地のよい場所になるよう、基本計画の策定などに取り組んでいきたいと考えています。

議員の皆さんには、先週、各委員会ごとに関係部課長と意見交換する場を設けていただきました。市長就任後、初めての開催でしたが、私自身も参加して胸襟を開き率直に対話をすることができました。貴重な時間をいただいたことに感謝するとともに、今後もこうした場を重ねてまいりたいと考えています。

議員の皆様におかれましては、時節柄、健康にくれぐれもご留意いただき、引き続き松本のシンカに協力を賜りますようお願い申しあげ、6月定例会閉会のあいさつといたします。

(以 上)